

平成28年12月5日

国土交通大臣 石井啓一 様
国土交通省九州地方整備局長 小平田 浩司 様
国土交通省立野ダム工事事務所長 宮成秀一郎 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状

熊本地震で立野ダム予定地周辺の両岸が大きく崩壊したこと等を受け、国土交通省が7月27日に設置した「立野ダム建設に係る技術委員会」は8月17日に、「熊本地震後もダム建設に支障となる技術的な課題はない」との結論を出し、国交省はダム本体工事に着手しようとしている。国交省はこれまで、住民が提出した質問状に何ら回答せず、住民が何度も要請してきた立野ダム説明会さえ一度も開催していない。

川辺川ダム事業で建設省（当時）は、平成7年以降何度もダム説明会を開催し、開催を広く住民に知らせ、住民団体にも直接開催日時等を連絡している（資料1）。また、住民の質問に対しても丁寧に文書で回答している（資料2）。その後河川法が改正され、住民参加が強調されているにもかかわらず、国交省の姿勢は20年前よりはるかに悪化している。「立野ダムが住民のため」と考えるのなら、国交省は住民の疑問に直接答えるべきである。

住民の疑問に直接答える立野ダム説明会の開催を再度強く要請するとともに、下記5点について公開質問します。12月16日までの回答を求めます。公開質問並びに回答は各報道機関に配信するとともに、当会のホームページで公開します。



両岸の大半が崩壊した立野ダム水没予定地周辺（パスコホームページの写真に加筆）

1. 立野ダム建設予定地の地盤は健全なのか

技術委員会は「熊本地震後もダム本体の基礎岩盤の性状に変化は認められず、基礎岩盤として健全性に問題がない」としている。しかし、熊本地震により長陽大橋西側の橋台は、立野溶岩（柱状節理）のトップリング岩盤崩壊（岩盤が鉛直方向に伸びた節理を境界面として側方に倒れ込む現象）で2 m近く沈下している。技術委員会資料では、「ダム本体の基礎岩盤を浅いところでも10m以上掘削する」としているが、右岸側はどこまで掘っても縦方向に節理（割れ目）が走る立野溶岩が続いている。立野ダムは重力式ダムである。長陽大橋の橋桁さえ支えることができなかつた立野溶岩が、比べられないほどの重量を持つダム本体を支えることができるのか。トップリング岩盤崩壊により、ダム本体と周りの岩盤の間に隙間が生じるような危険性はないのか。

2. 立野ダム水没予定地周辺にどのような地すべり対策をするのか。予算や工期を考えているのか

技術委員会は、大半が斜面崩壊したダム水没予定地周辺について「必要に応じて対策工を実施する」として、ダム湖周辺をコンクリートで固めた他のダムの対策工事例の写真を掲載している。ところが、国土交通省立野ダム工事事務所ホームページでは「立野ダム貯水池周辺について、地すべりの存在を示すような地形の分布は認められません」としている。説明が矛盾しているのではないのか。

ダム水没予定地周辺の大半が斜面崩壊している現状を見れば、地すべり対策には膨大な費用と工期が必要だが、国土交通省は「立野ダムの事業費は増えない。工期も延びない」としている。地すべり対策の予算や工期をどのように考えているのか。

たとえダム本体は造れたとしても、周りの地盤がこのような状態で、はたして安全に立野ダムは運用できるのか。危険ではないのか。

また、同委員会資料の「貯水池周辺の地すべり地形等の分布」図では、例えば長陽大橋下流右岸などの大規模な土砂崩壊を起こした箇所がマークされていないのはなぜなのか。

3. 立野ダム完成までに30万 m³ の掘削が必要ならば、予算や工期を考えているのか

技術委員会は「立野ダムの水没予定地内には約50万 m³の土砂が一時的に堆積していると推定され、ダム完成時までに約30万 m³の掘削を行うなどにより、洪水調節のために必要な容量を確保することは十分可能」としている。30万 m³の土砂といえば、10トンダンプ（6 m³積載）で5万台分の土砂を運び、処分する必要がある。30万 m³の掘削の予算や工期をどのように考えているのか。土砂をどこに処分する計画なのか。環境への影響は考えているのか。

4. 立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はないのか

技術委員会は「熊本地震後の大学・研究機関等の発表文献を収集・整理した結果、ダム敷及びその近傍に活断層によって生じたとみられる地表地震断層及びその疑いのある変状は報告されていない」との理由で、「立野ダム建設予定地に考慮すべき断層はない」と結論付けている。

しかし、安全が確保されておらず、現在でも踏査ができない場所も多く存在する。技術委員会が結論を出した8月17日に開催された「熊本地震住民セミナー」で、「濁川断層の西側を延長すると立野ダム建設予定地になるが？」との質問に対し、日本活断層学会理事・広島大准教授（地理学）熊原康博氏は「調査をしてみないとわからないが、今は危険で現場に入れない。国交省からも問い合わせがあったので回答している。調査をされるのではないかと回答している。技術委員会は、ダム予定地周辺の多くが未調査のまま結論を出しているのではないのか。

技術委員会は「ダム本体予定地から約500m離れた北向山断層に沿って、地表地震断層の可能性のある亀裂が線状に確認された」としている。つまり、断層がダム本体から500m離れているから大丈夫ということなのか。その根拠は何なのか。何m離れていれば大丈夫なのか。地表に現れていない断層もあるのではないのか。

技術委員会資料にある25の断層は仮排水路出口のすぐ下流にあり、ダム本体から極めて近い距離にあ

る。技術委員会は「25の断層については、過去の文献において記載があるものの、これまでの調査の結果、断層による変位地形は認められず、断層露頭も認められていません」としているが、現地を見ると、山の上から川床まで大きな亀裂が走っている。この亀裂が25の断層ではないのか。



国土交通省資料



排水路出口のすぐ下流に、25の断層と思われる亀裂が山の上から走っている 2016年7月2日撮影

5. 洪水時に流木などで立野ダムの穴はふさがらないのか

技術委員会は「熊本地震後の状況を踏まえても、放流孔（立野ダム下部の穴・高さ5m×幅5m）に流木が固定化されるような閉塞が生じることはなく、洪水調節能力にも影響はない」としている。それならば、直径約10mの立野ダム仮排水路トンネルの入り口が土砂と流木で完全にふさがっていることを、どう説明するのか。

技術委員会が立野ダム下部の穴が流木などでふさがらない理由として、穴の上流側を覆うスクリーンをふさぐ流木が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。その元となった模型実験では、ダムの穴をふさぐツマヨウジなどの円柱材が、ダムの水位が上がると浮いてくるとしている。しかし、実際の流木は根や枝がついており、水を吸って比重も大きくなっている。流木を穴が吸い込む力は、流木の浮力よりもはるかに大きいのは明らかである。実際の洪水では、流木も岩石も土砂も一緒に流れてくるが、技術委員会の検証では流木、岩石、土砂、それぞれ単独で模型実験やシミュレーションを行っただけである。立野ダムの穴がふさがらないとするシミュレーションは現実ではありえないことではないのか。

以上

『川辺川ダム事業についての情報の提供と説明会』
の開催について

平成7年6月29日
建設省九州地方建設局
川辺川工事事務所

一般の住民の皆様は川辺川ダム事業の計画をご理解いただき、
事業について建設的なご意見を頂くため、
人吉市の協力を得て下記により説明会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回の説明会では、
球磨川の治水計画と川辺川ダム事業の必要性、目的等について、
一般の住民の皆様に分かりやすい資料を提供するとともに、
その内容についての説明会を開催するものです。

記

日 時：平成7年7月7日（金）13:30～18:30

場 所：人吉市カルチャーパレス 小ホール

住所 人吉市下城本町1578-1

電話 0966-24-3311

説明内容：(1) 球磨川の治水計画

(2) 川辺川ダム計画

(3) ご意見、ご質問

当日は受付にて資料を配布いたします。入場は無料。
なお、地質、環境等については、今後の説明会で行う予定であり、
今回を含め計3回の説明会を予定しています。

(問い合わせ先)

建設省九州地方建設局川辺川工事事務所
(TEL:0966-23-3174、FAX:0966-22-1296)
調査設計課長 光成 政和(内線351)

平成7年7月4日

ダム問題を考える市民の会
 球磨川から全てのダムを無くす会
 清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会
 孫子に残そう、清流球磨川じいちゃん、ばあちゃんの家
 会長 外山敬次郎 様
 代表 原 豊典 様
 事務局長 重松 隆敏 様
 事務局 藤原 宏 様

建設省九州地方建設局
 川辺川工事事務所
 所長 中村 健一

『資料公開等の要請書』に対する回答について

去る3月9日に貴4団体より資料公開等の要請書（以下『要請書』という。）をいただきました。これについては、既に、既に、建設省として、貴4団体も含め一般の方々に対して、わかりやすい資料を用いて説明会（第1回目は球磨川の治水計画、川辺川ダム計画を対象とした説明会、第2回目以後に、地質、環境、地域づくりを対象とした説明会を行う予定です。）を実施している部分をお伝えしているところですが、本回答については、建設省として現在までに整理している部分について回答するものです。本文の1、2などの数字及び①、②などの丸書きの数字の項目は要請書に一致します。

ご質問は、説明会のなかなどで対応したく考えておりますのでよろしくお願いたします。なお、既にお願しているところですが、いまだご連絡を受けていませんので、貴4団体の規約、目的、会員名簿、役員名簿をお知らせ下さいませますようお願いいたします。

記

- 1、調査の項目の全体
 7月7日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」は、これまでの諸調査をもとに建設省がとりまとめたものです。

①基本高水流量の根拠、試算式、決定時期
 基本高水流量の根拠などについては7月7日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」を参照して下さい。

②雨量の測定地、把握方法
 測定地については、7月7日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」を参照して下さい。把握方法は、観測員による普通観測、自記雨量計です。

③流量の測定地、把握方法
 測定地については、7月7日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」を参照して下さい。把握方法は、観測員による普通観測、自記水位計です。

④汚濁状況とその変遷
 別紙資料を参照して下さい。

【別紙資料1】
 平成5年九州地方一級河川の水質現況

⑤魚族の種類、量及びその変遷。汚濁が魚族に与える影響とその変遷。
 魚族の種類については7月7日の説明会で配布する「川辺川ダム事業について」及び別紙資料を参照して下さい。

【別紙資料2】
 河川水辺の国勢調査（魚介類調査編） 球磨川抜粋

2、①流量
 人吉地点、川辺川（相良）地点、球磨川（錦）地点の過去5年間の一日平均流量については、別紙資料を参照して下さい。

相良地点、錦地点については、そのような観測地点を有しておらず、柳瀬地点、一武地点の観測データを整理しております。
 【別紙資料3】